

梅花短大○藤井千賀 相模女大短大 三宅栄子 東京文化短大 内藤道子
文教大女短大 三東純子 日本女大家政 宮崎礼子

目的 長期にわたって記録されたY家の家計簿記を分析して、家庭生活、家庭経営の動態を明らかにする。家庭の創設から発展、成熟、縮小にいたるライフサイクルの観点から家計の長期変動を観察するとともに、昭和の激動期にあって社会経済の外的環境が家計に与えた影響等をも考慮して分析、検討する。

方法 本研究は家庭経営の研究者が記録した家計簿を中心的資料とした。方法は①昭和8年から昭和62年の50余年間にわたるY家の家計簿を各年毎に整理する。②家族の生活史をまとめる。③実収入、実支出の時系列データ及び消費構造の変化をみる。④家計の変動要因を内的要因と外的要因に大別し、今回は内的要因として家族構成員の変化を、外的要因として昭和期の社会経済の変動を中心に、それらが家計に与えた影響を考察した。

結果 本家計は、多子・多人数の核家族で、かつ資産はほぼゼロから出発したが、子供全員に高等教育をうけさせるなど家族員の欲求を充足させ、かつ発展をとげた家計であった。夫婦ともに高学歴で、勤労者世帯としては高額所得世帯であった。とりわけ、妻の就業によって、支出を抑えることなく家族員の欲求を充足させることができた。家計の運営は、当時の「入るを計って、出ずるを制す」の考えと異なって「出ずるを制することなく、入るを計る」を基本方針とした。女性もその能力に応じて社会に貢献するべきであるという価値観に基づき、妻の能力を最大限に発揮するとともに、子供にも男女の別なく教育を行った。以上のような基本方針に基づき、合理的な家庭経営を行ったことが明らかになった。